

第41回冷凍技士研修会

「羽田クロノゲート」見学会

山口 信一 Shinichi YAMAGUCHI

1. はじめに

今回は、冷凍・空調・食品各分野とも関連の深い物流施設で、日本最大級の拠点であるヤマトグループの羽田クロノゲート見学会を2017年3月14日15:00～16:30に開催した。参加者は18名（委員1名、事務局1名含む）であった。

羽田クロノゲートは陸・海・空すべての輸送モードの利用に便利な東京都大田区羽田にあり、ヤマトグループの輸送・物流機能を集結することで、速く正確に届けるための仕組みと、洗浄や印刷・修理・メンテナンスなどの様々な高付加価値機能を一体化した総合物流ターミナルである（図1）。「クロノゲート」は、ギリシャ神話の時の神「クロノス」と国内と海外をつなぐ「ゲートウェイ（門、出入り口）」の2つの言葉を組み合わせで名づけられたとのこと。24時間365日操業であり、自然の力を使った様々な環境配慮や地域貢献施設を併設し、地域との共生をめざしている。

2. 見学コースの概要

見学会の集合場所はヤマトフォーラムというホールで、巨大なクロネコ（図2）が鎮座して我々を出迎えてくれた。すぐ横の宅急便の集配車と比較するとその巨大さが感じられると思う。ホールでは宅急便の過去・現在・未来の映像紹介があり、羽田クロノゲートのビジョンを学習したのち見学コースへ移動した。

見学コースは、集積された荷物がベルトコンベア上を流れていく様子を空中回廊から一望可能となっている。

荷物はそれぞれ一個ずつ進行方向に対し真横に移動可能な幅約1mのベルト状のカートに乗り、かなりのスピードで流れている。分岐時はセンサを駆使して制御され、底面をスライドさせる「クロスベルトソータ」により丁寧かつ迅速に仕分けられている。目的のベルト位置へ荷物を送り込むため、クロスベルトソータが自動でタイミングを見計らって荷物を送り込んでいる様には感心した。

この物流ラインは1～7階まであり、通関業務や流通加工エリアなど全ての階がベルトコンベアで繋がっており、それらは集中管理室でモニターにより効率的に管理されている。

見学コースの最後は展示ホールとなっており、物流が生み出す社会的な価値について、プロジェクトマップやゲーム感覚の「引き出し」による仕掛けで知見を深めることができた。

3. おわりに

今回は、普段目にする事の無い最新の物流システムを間近に見ることができた貴重な見学会となった。見学会に際してご協力をいただいた羽田クロノゲートの皆様に厚く御礼を申し上げ報告記とする。



図1 羽田クロノゲート全景



図2 受付棟のクロネコ



山口 信一 Shinichi YAMAGUCHI

武蔵工業大学（現）東京都市大学 卒業

（株）日立ビルシステム

Hitachi Building Systems Co., Ltd.

グローバルソリューション事業部 主管技師

原稿受理 2017年5月31日